

令和5年度 第2回上野原市総合教育会議 会議要旨

1. 開催日時 令和6年2月15日（木）10:00～11:35
2. 開催場所 上野原市役所2階 庁議室
3. 出席者
 - 【構成員】 村上信行市長、土屋すみじ教育長、大場卓教育長職務代理、田村たえま教育委員、渡部一雄教育委員
 - 【事務局】 市長部局：政策秘書課 佐藤課長、水越政策担当L
教育委員会部局：
 - 学校教育課：山口課長、井上教育総務担当L、佐渡学校教育担当L
 - 社会教育課：岡部課長、瀧森社会教育施設担当L、小西社会教育担当員
 - 【欠席者】 なし

4. 会議内容

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 議事
 - 【1】文化財常設展示施設の整備について
 - 【2】その他
- (5) その他
 - ・3人制プロバスケットボールチーム誕生について
- (6) 閉会

.....

【会議内容要旨】

(4) 議 事

【1】文化財常設展示施設の整備について【瀧森社会教育施設担当L】

[説明概要]

上野原市では、旧上野原町において、町誌編さん以前より文化財の常設展示施設の設置が望まれており、令和4年3月に策定された上野原市教育振興基本計

画にもアンケートから「市の歴史や文化を総合的に学ぶ教育的施設、文化財などを通して郷土の理解を深められるような展示」を求める結果が示された。

また文化遺産は郷土の歴史や文化の理解には欠かせず、地域の発展や活性化に資するものであることから次世代へ継承していくことも重要であると考え、市の歴史や文化を総合的に学ぶ教育的施設とし、また文化財を通じ郷土の理解を深めていくとともに、人々の新たな集いと交流の場、地域情報を発信する施設として設置場所を庁舎内外で検討してきた。結果、中心市街地に立地し、利用者の便がよく、既存施設の有効活用や今後の維持管理等を総合的に判断し、文化ホール内にある教育長室及び教育委員会執務室へ設置することとなった。新たな人流や市民の歴史認識の定着に向けた常設展示施設として、令和5年度は、庁内調整及び改修に向けた設計業務を行った。

今年度内には産業振興課が2階建設課の隣りへ移転し、令和6年度には、移転した産業振興課の執務室スペース西側の改修工事を行い教育委員会が前産業振興課執務室への移転後、空いた教育委員会執務室を文化財常設展示施設へ改修する工事を行う予定である。文化財常設展示施設は、令和7年4月の開所を予定している。

今後の課題としては、資料にあるとおり①企画展示の定期開催と資料調査、②体験学習の推進、③文化財の保管について、④職員（専門職）の人員不足である。

[主な意見等]

・総合的に学ぶ教育的施設として考えたときに、文化財常設展示施設が整備されたから来てくださいという視点ではなく、学校側が学習機会として活用できるような企画展示や施設運営をお願いする。

→施設面積は広くないので、有効活用していくことは必要である。学校側と連携し、学校側からの視点をもった展示を私からもお願いする。

→学校側からも授業に取り入れたいとの依頼がすでにある。学芸員が講師として参加もしている。そうしたケースもあるので、発展していければと思う。

・場所も人員も限られるので、社会教育課としてのバックアップをお願いする。

・施設が整備されてそのままではもったいない。学芸員の想いを実現できるような仕組みが必要ではないか。

→そのとおりである。一方、財政的・人的制限がある中、文化財保管施設の雨漏りの問題も解決していかなければならない状況もある。

・地区のお宝を寄附するのは、所有者では管理が難しいからであり、寄附した先の保管が十分で無いのであれば問題である。

・展示室を整備したときに、運用が学芸員の過度な負担とならないように、現物展示だけでなく、モニターによる展示やドローンで撮影した映像を展示するよ

うな工夫をしてもよいのではないか。

→今、市役所玄関ロビーで映像をながしているが、歴史的映像も十分可能である。

・私も含めて市民が市の歴史を知らないので、知ることが大事である。物を継承してだけでなく、歴史文化を伝えていくことも大事である。観るだけでは分からないことも多いので、そのための人員配置も大切である。

・私の友人が、河口湖町の美術館のサポートをボランティアで協力した。ある程度の年齢になると、そういうことをしたい人もたくさんいる。たくさんの人を巻き込む事が大事である。

→依頼した人の想いが伝わって、皆さん協力したのではと思う。それが大事ではないか。熱い想いをもちた人をうまく使うことが大切である。

・展示物を貸した人は、その後熱心になる。地域にも熱心な人がたくさんいるので、そうした人の想いを聞いたり集まる場を作っていくのが大事ではないか。

・地域で様々な歴史・文化を研究して詳しい人がいる。そうした人の発表の場や記録を残していくことも必要である。亡くなってしまうと何も残らない。

・西原中学校が閉校になる際に、西原の文化財等を記録した冊子を作成したと聞いたことがある。記録に残していくことは大事である。

・観光ボランティアガイドさんに協力いただき、実際に現地を見に行くツアーを実施しても良いのではないか。

→以前都市計画課で、市民が市の事を知らないのでバスで市内を巡るツアーを実施したが、バスがいっぱいになるくらい市民が参加した。

→社会教育分野だけでなく観光分野等も含めて連携し、まずは市民が市の魅力を知っていく取組を進めたい。

→地域展を開催する際には、動く展示として、例えば桐原地区であれば獅子舞を実際に見るツアーも行うと面白いかもしれない。展示の仕方、周知の仕方も大事、百聞は一見にしかずである。

・常設展示施設の整備については、私の公約でもあり、各地区の文化遺産を継承していくためには展示だけでなく、知識の継承や文化財の保管も課題となっているので、継続して取り組んでいきたい。

【2】その他

なし

(5) その他

(1) 3人制プロバスケットボールチーム誕生について【政策秘書課】

[説明概要]

3人制プロバスケットボールチーム誕生について、資料に基づき情報提供。